

適当な全体観の形成

各種領域には、アウトプットする物事とそれを作り提供するまでの過程が備わる。例えば、野菜の生産であれば、野菜がアウトプットになり、それに及ぶまでに、生産者、流通者、金融、情報、広告等の支援との一体的な構造がみられ、野菜全体の生産の内訳が、原材料、労務費、販売費、金利負担などとして積み増しされ、末端の売価が決まる。300 円のトマトに対して、直接の生産者には 60 円、流通コストに 40、金融負担に 10 円などとして、190 円が利益になり、そこに税金が 30%かけられ、57 円を引き 133 円が繰越利益として留保される。このような収支構造が掘み出されて、各々の役割と付加価値が算定され、自立と協働の体系とが把握される。この構造に対して、各種道具の進化から、付加価値の構成が変容し、流通コストの削減や金利の上下に及んで、中身の構造と割合が変容する。

口利き屋なるブローカーが間に入り込むほどに、手数料が取られて、利幅が減少する。口を利くことに付加価値がみられるかどうか。こんな点が問題とされる。管理型のコストが嵩み、そのしわ寄せが生産者に向かうか、末端の消費価格を上げられるか、市場の競争環境などによって、負荷の程度が変わる。生産者と消費者という需給構造の性格が中局的に捉えられる。そし

て、これらの特定市場の分母に、人口趨勢や分布状態が置かれ、長期性の観点が起こされる。

局所	特定生産者
中局	生産と流通と支援サービスと消費
	特定産業構造
大局	国境を跨る人もの金の移動、 人口趨勢や資源や気候地形、

こんなような全体への把握をもって、どんな生産や産業構造や国家間障壁を「作るか、削るか」の見解が起こされる。この基本変数と算式に、軍事的脅威やテロといった政治的不安要素が加減され高コストと付くか、無駄なコストの削減へ至るか、物理的依存の体質という悪性的な作法に偏って生存を強める態度や心理的良性を基礎にした社会関係の形成などという視点が加えられる。人権や法による統治、民主主義や専制性、自由と平等の関係などという抽象原理の形成と実施や、各種世界観の創造などという面が生まれ、各層との相関を生む。根本的且つ長期性の価値観が導出される。

根本的且つ長期性の利益概念	心理と物理の相関
	人権、法による統治、民主主義、自由と平等の関係、経済と政治の在り方、教育の在り方

こんなような関係図によって、皮膚感覚の現象から次第に間接要素への視野の広がりと、根源性を問うような思索が行われて、特定現象や領域へのるべき姿と現況を抑え、適当な方法を見出す創造力が出現する。または、こうした大局性に対して、トマトという直接の生産革新をもって、ミクロ的な技術改良の熱が投じられ、産業から見る概念付けも変わるという部分からの変化が進められる。実質的な力の強さは、ミクロからの革新性に見られ、動力の源泉と配されて、中局や大局観へと影響を齎せる力の流れと、大局的構図からミクロの性格をつけて管理制御する力の加え方が起こされる。これらの根源に生命感が映し出され、より良き生の出現という力が現象の起点となり各種改善へと発想される。肥満な生産で糧を得るような規則性が強まり、生命感が希薄化して、盗みや詐欺のような行為や口利きという行為による糧の入手へ偏る向きが強まると実際的な付加価値への比重が狂い、おかしな人間性が強まり物理に依存した社会関係が深まる。根源価値や全体観の適正が問われ長期原理が起こされ、歪さの修正へ回る長期周期が描かれる。長期原理自体に価値を浮かべるか、無駄なコストと解されるか、個別性と共通性が生まれる。哲学や文化や教育の態度について、問い合わせる世界を作るべきかの根源的な見解が備わり、各所へ基準と適用の姿を見る。健康な人間像を不動に、道具の開発による

効用とマイナス面を浮かべながら、生物と物理と心理の適正を見出し、或いは自然と人間と道具のほど良き生態系へ発想が生まれ、纏まりある思想などへ至る。こんなような集約的全体観が描かれて、長期周期の世界観が起り、中期や短期現象を適度に見る視点が備わり、安定と躍動と循環の構図が生まれるよう思います。

思想	自然観、人間観、道具観、生命観、 経済と政治と教育の概念と相關
----	------------------------------------

局所現象について物理的皮膚感覚へと偏り、間接性や根源性への発想が下がる傾向について、思想などの役割が良性へ作用する。偽情報が作り出される背景的な因果が映し出される。「無駄なブローカー」や「過剰な報酬にある生産者」なる歪な欲求からの悪性操作について、健康な感性と創造力へと視点が高まり良否の峻別が進み健全性概念と適用の力が作られる。

虫けら政治家やマスゴミか、良質な表現や生産者か、判断の基準を明瞭化して、全体から見てどんな効用を果たされるのか、利己性と利他性との兼ね合いや割合が絞り込まれ適正化へ及び調和性が向上する。無駄で肥満な盗み症の管理職などという指摘が起こされる。どんな基準や世界観を抱かれるのか、予めの価値を整理し提示して、内外との共感を作り実際現象との整

合をもって真相真価が測られる。ピンハネ型の政治屋が妙な欲求で思慮の弱い方法などを求めて利益が見えず現象が変わらない。偽情報を発している自覚の弱い肥満症とも解されかねない。一過性の人気取りの態度なども、どんな背景図を備えて局所現象への強弱を充てるのか吟味される。